

科目名	生涯発達看護学(小児)			ナンバリング	PEG223	授業形態	講義
対象学年	1	開講時期	後期後半	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	レンデンマン美智子	担当教員					

授業の概要	看護の対象としての人間をライフサイクル上の連続性においてとらえ、発達段階の特徴と発達課題を明らかにするとともに、健康面に着目した対象のとらえ方について学修する。ここでは、胎児期・新生児期を経てきた存在、成人期に向かう存在としての小児期について、その健康的特徴を人体の構造と機能のメカニズムや心身発達理論に基づいて、論理的・科学的にとらえるとともに、発達段階の特徴からみた健康課題を理解する。また、身近な子どもを具体例として、実践的に対象をとらえる視点を明確化し、その健康特性について学修する。						
到達目標	看護の対象としての人間をライフサイクル上の連続性においてとらえ、発達段階の特徴と発達課題を明らかにするとともに、健康面に着目した対象のとらえ方について学修する。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	毎回の授業の後の復習						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
	○	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
		4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
		5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1) 子供の発達ー認知、言語、社会性、情緒、粗大運動、微細運動を理解できる。 2)健康課題をアセスメントできる。	1)こどもの発達を発達理論を使用してアセスメントできる。 2)発達障害の原因、症状、治療が説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○	○				70%
小テスト・授業内レポート	○	○					30%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	ガイダンスーシラバスの説明、課題、評価方法、	発達とは何かを理解できる。	
	第2回	子どもの発達ー1	言語、認知、社会性、情緒の発達を理解できる。	
	第3回	子どもの発達ー2	粗大運動、微細運動、生活適応の発達を理解できる。	
	第4回	子どもの発達ー3	発達理論ーエリクソン、ピアジェ、ボウルビイ、ハヴィガーストを理解できる。	
	第5回	子どもの発達ー4	発達評価ーデンバー発達判定方法を用いてケーススタディの発達を分析できる。	
	第6回	子どもにとっての安全な環境と課題	健康課題ー自閉症の原因、症状、治療を理解できる。	
	第7回	子どもにとっての安全な環境と課題	健康課題ーADHDとIDの原因、症状、治療を理解できる。	
	第8回	発達のアセスメント	事例を用いて発達のアセスメントができる。	
	第9回	期末テスト		
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験			
授業の進め方		講義、グループワーク		
授業外学習の指示		(授業外学習時間： 毎週 分)		

教科書	ナーシング・グラフィカ看護 小児の発達と看護 MC メディカ 出版
参考書	小児看護学概論：南江堂、小児看護学：メジカルフレンド社、発達心理学への招待：サイエンス社
参考URLなど	
その他	